

## 富士山を学ぶということ

〈静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 主査 岩淵智紀〉

子どもの頃から富士山はあって当たり前の存在であり、富士山を見ない日はほとんどありませんでした。そんな自分が、公立中学校の教員として富士宮市に着任し、今年度4月より静岡県富士山世界遺産センターで勤務しています。そこで、富士宮市の児童・生徒が富士山についてどのように学んでいくのか改めて考えていきたいと思います。

現在の教育課程の中には「総合的な学習の時間」があります。この時間は、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に問題を解決する能力を育むことを目標とし、2000年(平成12年)から段階的に導入され、小学校では、2002年4月に施行された学習指導要領により創設されました。

富士宮市では施行以前より、「富士山学習」として総合的な学習の推進を図っていました。富士宮第二中学校での富士山の地質についての授業後、富士山について知りたい、学びたいという生徒の願いから「富士山学習」の原型が生まれました。この「富士山学習」が、平成9年度には富士宮市の施策として、市内の全小中学校に呼びかけ、現在も児童・生徒が自分の「知りたい」「学びたい」という思いから、自ら問いを持ち、学びを深めています。自分も中学生だった20数年前に、「富士山学習」を学んだ記憶があります。

では、富士山学習ではどのような問いを深めているのでしょうか。令和8年1月に行われた富士山学習 PART II 発表会のパンフレットから、各学校の発表課題をAIに要約してもらったところ次のような回答が返ってきました。

- 富士宮市の現在と未来を住民主体で考え、持続可能で魅力ある地域づくりを進める提案・探究の集合
- 大きな柱は「観光・文化資源の活用」「暮らしや福祉・防災」「環境・ゼロカーボン」「地域経済・空き家対策」「教育・次世代継承」

「富士山という言葉がないじゃないか」と思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「富士山学習」は、市内の小中学校が地域の特色を生かして進めています。富士宮市は富士山の南西麓に位置し、市の58%にあたる地域が富士箱根伊豆国立公園に指定されています。つまり市の半分以上が富士山ということです。それだけでなく、例えば市内のいたる所から湧き出る湧水は、富士山に降った雪や雨が数十年、数百年かけ地上にあがり、その湧水を探しに探検することで、子どもたちに疑問が生まれ、問いにつながります。富士山の構成資産が周辺にある学区では、富士山信仰や構成資産についてやその地域の魅力を調べていくと、地域に根付いた文化や魅力をどのように未来につなげていけば良いかという問いにつながります。

富士宮市に生きる子どもたちの暮らしは、富士山や富士山とかかわりのある様々な事象、生きる人々の関わりの中で成り立っています。つまり富士山学習で地域のことを学ぶことは、「富士山



を学ぶ」ことにつながります。そして、その地域を持続可能で魅力ある地域にしていくための提案を子どもたちがすることは、富士山を守っていくことにつながっていくでしょう。

富士山世界遺産センターでは、そんな富士山を学ぶ子どもたちに、富士山のことを「楽しく伝える」ことを通して、富士山の価値を「永く守る」ことができるような取組を今後も企画し実践していきます。ぜひ来館して、富士山について一つでも多く学んでいって欲しいです。

※ちなみにセンターには、富士山ライブラリー（写真）もあります。総合的な学習の時間で困った人はぜひ、センターにお越しください！



#### 【参考資料】

- ・「富士山学習」研究会『総合的な学習富士山学習 知りたい、学びたい、共に生きたい』（国土社 1999年）
- ・第27回富士山学習 PARTⅡ 発表会実行委員会『第27回富士山学習 PARTⅡ 発表会パンフレット』（富士宮市教育委員会教育部学校教育課 2026年）

